下野谷遺跡が国史跡に正式決定！

東伏見６丁目に所在する下野谷遺跡西集落が、３月10日（火）、官報告示を経て、正式に国史跡に指定されました。

３月22日（日）には、西武新宿線東伏見駅前の早稲田大学東伏見ＳＴＥＰ22において、約３００人が参加し、記念式典・講演が盛大に行われました。

式典では、来賓の方からのお祝いの言葉や下野谷遺跡のアニメーション、地域のスポーツクラブが作成した「したのや縄文体操」のビデオが上映されました。

式典に引き続き、高橋龍三郎早稲田大学文学学術院教授による講演「民族誌と理論から探る下野谷遺跡の集落」が行われました。

会場では土器・石器等の出土遺物の展示、高層階から遺跡の遠景を眺めながらの解説もありました。また、下野谷遺跡公園では現地解説を行うなど、盛りだくさんの内容でした。

駅から会場への道沿いには、地元の東伏見小学校の５年生が作成した色とりどりの「のぼり旗」が立ち、祝典をにぎやかに盛り立てていました。

下野谷遺跡にとってはこれが史跡としての第一歩です。これから、市民の皆さんとともに遺跡の保護・活用を進めていきます。

教えて！ したのやムラ しーたとのーやの「下野谷遺跡」

しーた
©T&K/西東京市

のーや

下野谷遺跡の基礎知識

所在地　東伏見２・３・６丁目

立地　石神井川を北に望む高台～低地（標高51～59ｍ）

規模　約13万４千㎡（うち西集落の規模約２万４千㎡）

時代　旧石器時代・縄文時代・近世・近代を中心とする遺構・遺物が出土

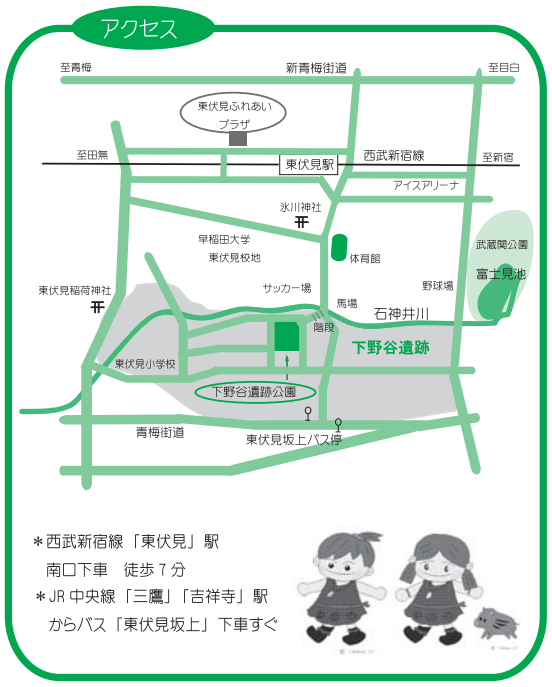
概要　旧石器時代、縄文時代といった採集・狩猟を主たる生業とする人々の痕跡が多く残されてます。

特に今から４～５千年前の縄文時代中期には、当時の典型的な形態のムラである「環状集落」が、浅い谷をはさんで東西に複数存在する、南関東最大級の集落遺跡です。

集落は、土坑（穴）が多く掘られた墓域のある広場を、竪穴住居跡（家屋）や掘立柱建物跡（倉庫）が囲む形です。

出土している土器や石器からは、広域のネットワークに支えられた縄文社会の様子がわかり、下野谷遺跡は石神井川流域の拠点となるムラであったと想定されています。

特に、直径約１５０ｍの西集落は、保存状態も良好であることから、未来に残すべき大切な文化遺産として、国史跡に指定されました。現在の指定地は、下野谷遺跡公園周辺の国・市有地、約１万２５００㎡です。



＊西武新宿線「東伏見」駅
南口下車　徒歩７分
＊JR中央線「三鷹」「吉祥寺」駅
からバス「東伏見坂上」下車すぐ

かめしーたのしたのやムラ日記

これまでご好評いただきました、「シリーズ西東京市文化財」は現時点での市内の「国・都・市指定文化財」「国登録有形文化財」の紹介を終えました。

そこで、今回からは新たに、したのやムラに住む「かめしーた」が案内役となり、国史跡に指定された下野谷遺跡について紹介するコラムを始めます。

かめしーた

「かめしーた」の「したのやムラ」日記第一弾。

まずは、今から４５００年前の「したのやムラ」（現在の下野谷遺跡）に住む家族、男の子の「しーた」と女の子の「のーや」を紹介します。

二人は子供ですが、縄文時代では立派な働き手です。

今日、「のーや」は広場でお母さんやお姉さんたちと「石皿」と「敲石・磨石」を使って、クリやクルミを割っています。ドングリ等も含めた堅果類は大事な食料で、粉にして、クッキーやお団子にすることもあります。石皿に使うような大きな石は、なかなか手に入らないので、長く使って、ほら、真ん中に穴があいてしまっています。

のーや　うり

「しーた」は、お兄ちゃんとイヌの「りょう」と一緒に弓矢を持って狩りに行っています。

しーた　りょう

弓矢は、土器と並ぶ縄文人の大発明品の一つです。氷河期が終わり、温暖化した日本列島には四季ができ、この周辺では落葉広葉樹の森が広がります。ナウマンゾウなどの大型動物にかわり、動きの速いシカやイノシシを狩りの対象としたため、弓矢のような飛び道具の発明は重大でした。

矢の先に付ける「石鏃」には、黒曜石というガラスのような切れ味の岩石も好んで使われますが、下野谷遺跡では、伊豆七島の神津島や信州の和田峠産のものも出土しています。遠くのムラとも交流があったのですよ。

では、次回をお楽しみに。

◆社会教育課　042(438)4079